

戸田 あつひろ 活動報告



ご挨拶

皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。淡路市議会議員の役をお預かりして2年目となりました。昨年以上に市民の目線に立った活動で皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

私たちの子どもや孫の世代にしっかりとバトンを渡せるよう、20年、30年先を考え持続的に淡路市が発展していくためには何が必要かを探りながら、淡路市に住む全ての人が「淡路市が好きだ」と心から思えるような姿勢を目指して活動してまいります。

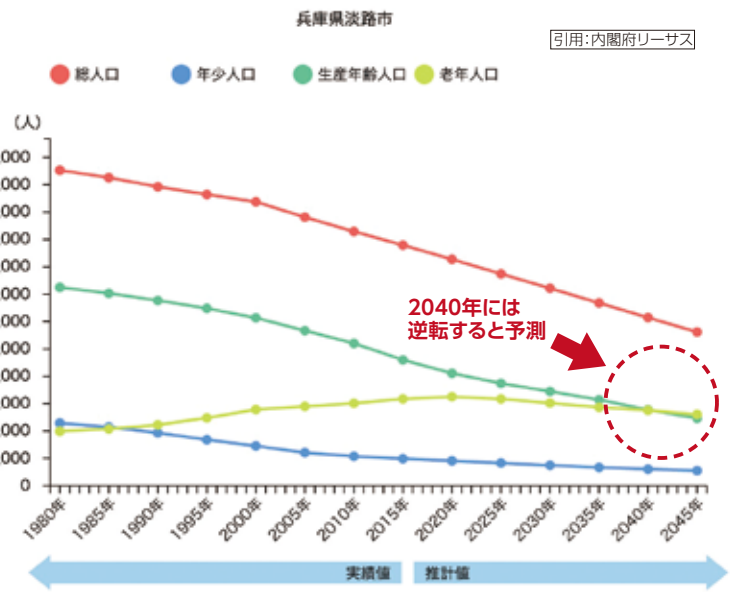
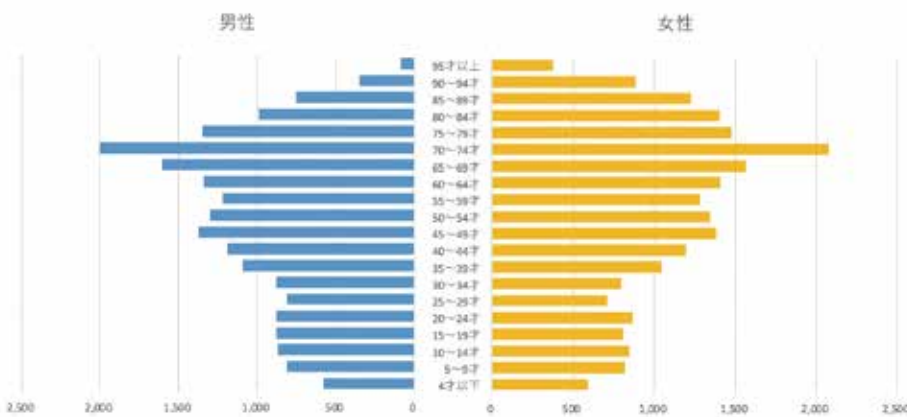
戸田敦大(とだ あつひろ)
昭和60年6月24日生まれ(37歳)

現在の淡路市の人口動態を転入者と転出者を比較する社会増減で見ると、転入者が転出者を上回る「社会増」にあります。

しかし、少子高齢化の流れは強く、**令和3年度の1年間の出生数は183人に留まっています**。また、15歳～64歳の現役世代とも言える生産年齢人口と65歳以上の老年人口は2040年には逆転すると予測されています。

これに加え、核家族化も進んでいることから、共働き世帯はますます増えていくことも予測されます。また、65歳以上の方々も今まで以上に元気に活躍していただける社会の実現が急務となっています。

「令和4年度10月男女別人口動態」



このことから、少子高齢化、人口減少社会において淡路市が持続的に発展するための施策が必要であると考え、一般質問にて下記を提言いたしました！

学童保育の整備が必要！

今後、現役世代の減少により共働き世帯がさらに増加していくことや、核家族世帯の増加、また、淡路市は他市と比べて女性の就業率が高いことから、安心して子どもを預かってくれる学童保育の整備が必要！特に現在午後6時までとなっている受け入れ時間を延長することを求めます！



産後ケア事業をより身近に！

出産に対しての不安の払拭やケアが必要！産後ケア事業(出産後、お母さんのからだやこころの不調や育児に不安のある方、ご家族の方から十分な支援が得られない方を対象に、ショートステイやデイサービスで助産師などから支援を受けられるサービス)をより身近に利用してもらえるよう、また、特に男性からの認知度が低いことから積極的な告知が必要！



元気な高齢者の活躍の場の整備を！

段階の世代の方々が75才以上の後期高齢者となる、いわゆる「2025年問題」により社会全体の医療費や介護費の増大に伴い、現役世代の負担が増加と言われています。一方、人生の経験や知識が豊富なシニア世代の方々に元気に活躍していただくことで社会全体のプラスになることから、地域共生型社会の実現のため、環境整備を行うことが必要です



【令和3年度決算審査】

第99回定例会では令和3年度の決算審査が行われました！右記と裏面に令和3年度に行われた事業の一部を紹介します。

「防犯等整備事業」1,498万円余

地域の犯罪や事故の抑止に重要な役割を担っている防犯等の整備事業です。令和3年度では100機を整備し新設・交換が行われました。



「水産業振興事業」総額1億7745万円余

ヒラメやマダイ、マコガレイなどの稚魚を放流する「種苗放流中間育成事業」や、漁船保健掛金の個人負担分の一部を補助する「漁船保健補助金」、大型のり自動乾燥機等の競争力の強化を図る機器購入費用の一部を助成する「漁業経営構造改善事業補助金」などが行われました。



「有害鳥獣対策事業」総額7581万円余

イノシシ等の有害鳥獣対策のため捕獲檻の設置や、狩猟免許所得に要する費用の一部を補助する事業、集落ぐるみで被害防止対策を実施する経費の補助などが行われました。



「キャッシュレス決済導入促進キャンペーン事業」9,222万円余

キャッシュレス決済の普及促進と新型コロナウイルス感染症により影響を受けている市内事業者を応援するため、キャッシュレス決済によるポイントが付与されるキャンペーンが官民連携で行われました。



「学びイノベーション事業」3794万円余

新たな学習様式に即した小中学校でのタブレット端末の毎年更新分(350台)の整備を実施しました。



「あわじ暮らし推進事業」553万円余

市内に移住定住のサポート窓口を設置し、移住から定住まで一貫したサポート体制の整備が行われました。令和3年度では1,927件の相談があり、62名の方に本市に転入いただきました。



北淡震災記念公園の 今後は!?

第99回定例会(令和4年度9月議会)において北淡震災記念公園のレクリエーション施設(レストラン・物産館)を市の管理から外すための条例改正案である議案第42号「淡路市北淡震災記念公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正 する条例制定の件」が上程されました。

現在は指定管理制度のもと、レストラン・物産館が民間事業者によって管理運営されていますが、市の管理から外し民間事業者に売却することで、より積極的な設備投資や運営事業の転換を図ることが本議案の目的です。開設から24年が経過していることから、今後は施設管理に要する費用が今まで以上に必要となることが予測されます。また、私個人の考えですが、レストランや物産館といった投資的な意味合いの強い施設は行政が管理を行うよりも民間が運営する方が良いと考え、本議案に賛成いたしました。

しかし、北淡震災記念公園は阪神・淡路大震災で露出した野島断層を保存する保存館や、震災で亡くなられた方々を弔う慰霊碑もあり、震災の記憶を風化させない教育的施設であり、祈りの場でもあります。このように他の指定管理施設と性質が異なることから、**今後の運営事業者や運営事業の選定については、地元の方々の想いや意見を反映させる必要がある**と考え、本議案に対して下記の「付帯決議案」を長瀬議員と共に提出いたしました。

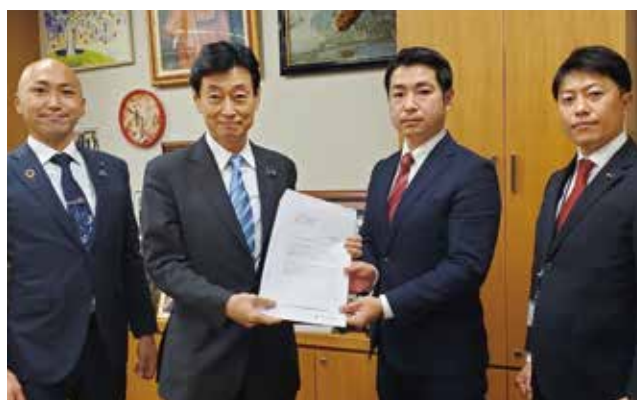


「条例改正により淡路市北淡震災記念公園のうち本市の管理から離れる観光・レクリエーション部(物産館・レストラン)の今後の運営については、新たな運営者、並びに運営事業の選定にあたり、地元町内会をはじめ地元住民の意見、要望を審議会に反映し、地元住民の同意を得ること。また審議会の情報公開、提供に一層の努力を図ること。」

要約すると「地元の意見を聞いてな」というものです。当然、市の担当部局としても地元の方々の想いや意見を大切にしていることは強調せねばなりません。しかし、**市民の代表である議会として行政に対し「地元の意見を聞いてな」と申し添える必要がある**と考えました。

9月29日に行われた評決の結果、賛成8人、反対9人の賛成少数で残念ながら本付帯決議案は否決されましたが、引き続き、市民の目線に立った活動を行って参ります。

※「付帯決議」とは・・・議決された議案に対して付けられるもの。議案に対して法的拘束力はありませんが議会としての意志や理念を示すものです。



国や県、市に各種要望を出させていただきました!



自己紹介

戸田敦大(とだ あつひろ)
昭和60年6月24日生まれ(37歳)
岩屋中学校、明石高校、甲南大学経営学部 卒業

略 歴

2008年 ゼブラ株式会社 入社
営業として名古屋支店勤務。主に北陸地方を担当する。地方と都市部の格差や、地方の疲弊を目の当たりにし、淡路市へ帰ることを決意する。
2010年 淡路砒油株式会社 入社

2021年 淡路市議会議員選挙 初当選
2022年 産業厚生常任委員会副委員長
10月より会派「結の会」に所属

